

臨時休業明けの年間指導計画参考資料 (地理的分野・第2学年)

※地理的分野（第2学年）の教科書での時数 57 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 9.5 時間

（第2学年の社会科全体の時数 105 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 13.5 時間）

※2020 年度は、2021 年度から全面実施される新学習指導要領への移行期間となり、地理的分野が5時間減、歴史的分野が5時間増となることを受け、一部内容の入れ替えや、時数配分の変更を行っておりますのでご注意ください。

第2編 日本のさまざまな地域

※移行措置に伴い、第2編第1章「日本の姿」の内容を、第2学年から第1学年に移動させました。

第2章 世界から見た日本の姿

（配当 15 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし）

1 節 世界から見た日本の自然環境（配当 6 時間）

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
54	1 世界の地形 (p. 142～143) 地震の震源や火山が連なる地域 安定した陸地	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の地形は、大きく分けて、山脈の連なる造山帯と平原から成っていること、日本は、環太平洋造山帯に属することを地図などから読み取る。 ● 大地の動きが盛んで不安定な地域と、地震や火山活動が見られない安定した地域が世界のどこに分布し、それぞれどのような特色があるのかを理解する。 	
55	2 日本の山地と海岸 (p. 144～145) 険しい山地 変化に富んだ海岸 日本を取り囲む海	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の地形の特色を世界の地形と関連づけて捉えるとともに、日本は山がちな地形で、国土のほぼ中央に山脈が連なっていることを捉える。 ● 日本の海岸や周辺の海、海底の地形がさまざまであることを景観写真や地図から読み取り、その特色を理解する。 	
56	3 日本の川と平地 (p. 146～147) 急で短い日本の川 さまざまな地形が見られる平地	<ul style="list-style-type: none"> ● 統計資料を参考に、世界と日本の川、平地の比較を通して、日本の川、平地の特色を考察する。 ● 川と平地の関連に着目し、平地には平野や盆地など多様な 	

地理－2

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
		<p>地形が見られることをつかむとともに、地形と土地利用の関係について理解する。</p>	
57	<p>[地理スキル・アップ] 地形図の読み取り方① (p. 148～149)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地利用などが正確に表されている地形図に触れ、その読み取り方を理解する。 ● 等高線に着目し、その場所の地形や起伏、土地利用の読み取り方を身につける。 	<p>※ [地理スキル・アップ] 地形図の読み取り方② (p. 268-269) (105 時間目) をまとめて学習することも考えられる。</p>
58	<p>4 世界から見た日本の気候 (p. 150～151) 日本が属する温帯地域によって異なる日本の気候</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 温帯の三つの気候区の分布や雨温図、景観写真の比較を通して、類似点と相違点に気づく。 ● 日本の気候は、季節風の影響により四季の変化が明瞭であるとともに、梅雨や台風の影響を強く受けることを捉える。 ● 雨温図や分布図の作成を通して、日本の気候は、南と北、日本海側と太平洋側、内陸部と臨海部など、位置や地形との関係で区分ができることに着目し、日本の気候が変化に富んでいることに気づく。 	
59	<p>5 自然災害と防災への取り組み (p. 152～153) さまざまな自然災害被災地へのさまざまな支援 防災対策と防災意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本に見られるさまざまな自然災害を、日本の自然環境の特色および人間の活動と関連づけて捉える。 ● 観測施設や技術の進歩により、自然災害の被害を少なくする努力がなされていることに気づくとともに、身近な地域で取り組まれている防災対策について考える。 	
-	<p>[深めよう] 震災と防災・減災への取り組み (p. 154～155) 地震の原因 津波が起こる仕組み 地震と津波の被害 これまでの防災への取り組み 災害後の生活 減災への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震の原因と津波が起こる仕組みについて理解している。 ● 自分が住む地域の防災・減災について積極的に考える。 	

2 節 世界から見た日本の人口（配当 2 時間）

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
60	<p>1 世界の人口分布と変化 (p. 156～157)</p> <p>増え続ける世界の人口 世界の人口問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の人口ピラミッドや人口構成の推移，出生率と死亡率の主題図などから，世界の人口についての特色や課題を考察する。 ● 人口ピラミッドから，その国または特定の地域における人口構成の特色を判断し，課題と対策について考察する。 	
61	<p>2 日本の人口と過疎・過密問題 (p. 158～159)</p> <p>人口構成の変化 人口分布の変化 過密問題と都心回帰現象 拡大する過疎地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の人口ピラミッドや人口構成の推移，人口移動の主題図などから，日本の人口についての特色や課題を理解する。 ● 景観写真や人口ピラミッドの比較などの資料から，過疎地域と過密地域の分布状況やそれぞれの地域が抱えている課題とその対策について考察する。 	

3 節 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業（配当 5 時間）

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
62	<p>1 世界の資源・エネルギーと産業（p. 160～161） かたよる鉱産資源の分布 広がる再生可能エネルギーの活用 世界の産業分布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉱産資源の分布やエネルギー消費量が世界的に偏っていることに気づくとともに、地球温暖化対策や持続可能な社会実現のための取り組みについて関心を持つ。 ● 世界の産業地域の分布や産業構造の変化に気づき、かつてはヨーロッパ・北アメリカ・日本などが中心であった世界の工業生産が、近年はアジアで急速に発展してきたことを理解する。 	
63	<p>2 日本の資源・エネルギーと環境問題（p. 162～163） 資源輸入大国 日本 日本の電力をめぐる問題 資源の活用と環境への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の資源・エネルギーの自給率が低い現状や発電量の内訳とその課題に気づき、将来的なエネルギー問題について関心を持つ。 ● 日本は環境問題への対策として、再生可能エネルギーの利用やリサイクルへの取り組み、環境に配慮した技術開発に力を入れていることを理解する。 	
64	<p>3 日本の農林水産業（p. 164～165） 日本の農業の特色 農業がかかえる課題 日本の林業の特色と課題 日本の漁業の特色と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本は、国土を高度に利用し、生産性が高い農業を各地の特色に合わせて行っていることを捉えさせる。 ● 日本が食料や木材の世界有数の輸入国となっている現状を理解し、農林水産業の今後の課題を考える。 ● 日本の漁業が、排他的経済水域の設定や資源保護の視点から育てる漁業へと方針を転換し、養殖漁業や栽培漁業に期待が寄せられていることに関心を持つ。 	
65	<p>4 日本の工業（p. 166～167） 太平洋ベルトに集中する工業 国際化する日本の工業 日本の工業の新しい課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本は工業原料のほとんどを輸入しているため、臨海型の工業地域が形成されてきたこと、近年は高速交通網の整備により内陸型の新しい工業地域が形成されるようになったことを理解する。 ● 加工貿易に依存してきた日 	

地理－5

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
		<p>本の工業が、外国との貿易上の対立をさけるためや産業の国際化に対応するために、世界各地に工場を移していることに気づく。</p>	
66	<p>5 日本の商業・サービス業 (p.168～169) 多様化する日本の商業 成長が著しいサービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本は商業の就業者数が多いことに気づくとともに、近年では店舗や商業形態が多様化し、商店間の競争の激化などにより、地方の商店街の活性化が課題になっていることを理解する。 ● 都市型の生活スタイルが普及し、新しいサービス業が成長してきたことに関心を持つ。 	
-	<p>[深めよう] さまざまな発電方法の特徴と課題 (p. 170～171) これまでの主な発電方法の特徴 再生可能エネルギーを使った新しい発電方法の特徴 次世代型のシステムへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな発電方法の特徴と課題を理解する。 ● これからの日本の電力の在り方について関心を持つとともに、それを発電している地域の立場も踏まえて考える。 	

4 節 世界と日本の結び付き (配当 2 時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
67	<p>1 グローバル化が進む世界 (p.172～173) 広がる世界の交通・通信網 活発化する国際貿易</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な交通・通信網の整備によって、日本は世界各地と強く結び付いているが、世界的視野で見ると、この結び付きには地域差があることを理解する。 ● 産業の国際化に伴い、日本の貿易構造が、加工貿易から、生産したものを相互に依存し合う貿易に転換してきていることに気づき、貿易の相手先の変化やサービス貿易の活発化を捉える。 	
68	<p>2 日本各地を結ぶ交通・通信 (p.174～175) 進む高速交通網の整備 情報通信網の発達と生活の変化 使い分けられる交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内の交通・通信網の整備には地域差があり、地方都市間の時間距離の短縮が課題になっている一方で、情報の地域格差が改善されてきていることを理解する。 ● これからの日本の交通・通信網の整備の在り方について、地球環境に配慮した移動・交通手段と関連づけて考察する。 	

第3章 日本の諸地域

(配当 35 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3.5 時間)

1 節 九州地方－環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし－ (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
69	1 九州地方をながめて① 九州地方の生活の舞台 (p. 179～181) 火山活動に由来する地形 温暖で多雨の気候	<ul style="list-style-type: none"> ●九州地方には火山が多く、さまざまな災害を引き起こしている一方、恵みももたらしていることに興味を持つ。 ●雨温図を通して、九州地方が温暖で多雨の気候であることを捉える。 	
70	2 九州地方をながめて② 九州地方の人々の営み (p. 182～183) 結び付きが強まる九州各県 気候と地形に応じた農業 転換を求められた鉱工業	<ul style="list-style-type: none"> ●九州地方では、稲作や近代的な工業が発達してきた北部に人口が偏っていることに気づく。 ●これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。 	
71	3 環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし① 多様な環境問題と環境保全の取り組み (p. 184～185) 豪雨がもたらす土砂くずれと水害 豪雨と開発がもたらす赤土被害	<ul style="list-style-type: none"> ●豪雨による土砂崩れと水害に対する取り組みについて、自然環境の特色と関連づけて考察する。 ●さんご礁を守る取り組みについて、地域開発の動向と関連づけて理解する。 	
72	4 環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし② 工業化・都市化にともなう地域への影響 (p. 186～187) 工業化がもたらす地域の課題 安全、快適な都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●工業化により深刻な公害が発生した水俣市が、環境モデル都市に選定されるまでの過程を捉える。 ●都市化がもたらした環境問題と、その対策のための工夫を考察する。 	
73	5 環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし③ 持続可能な社会を創る (p. 188) 鉄鋼都市から環境都市へ 環境と開発の両立 ■九州地方の学習をふり返ろう (p. 189)	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州市が持続可能な社会を目指してエコタウンを形成していることに気づく。 ●環境問題を、自然環境や人々の生活と関連づけて捉え、九州地方の特色をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 189 の「九州地方の学習をふり返ろう」に取り組み、2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し、適切に指導する。
-	[深めよう] 屋久島の自然と人々の生活 (p. 190) 特殊な自然環境 自然の開発と保護 エコツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ●屋久島の自然環境の多様性とその環境破壊の背景について理解する。 ●観光業と環境保全の両立について興味を持つ。 	

2 節 中国・四国地方 -都市と農村の変化と人々の暮らし- (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
74	1 中国・四国地方をながめて ① 中国・四国地方の生活の舞台 (p. 191～193) 自然環境の異なる三つの地域 二つの山地にはさまれた瀬戸内	<ul style="list-style-type: none"> ● 山陰，瀬戸内，南四国の三つの地域の自然環境の特色を，地図と雨温図から把握する。 ● 瀬戸内海の役割と瀬戸内の土地利用を，その自然の特色から理解する。 	
75	2 中国・四国地方をながめて ② 中国・四国地方の人々の営み (p. 194～195) 瀬戸内地方に集まる人口 重化学工業が中心の工業地域 自然環境を生かした農業，漁業	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国・四国地方の人口と産業の地域的な違いを，自然環境などに関連づけるなどして，大まかに捉える。 ● これまでの学習を踏まえて，追究テーマに対する仮説を立てる。 	
76	3 都市と農村の変化と人々の暮らし① 都市の役割とその課題 (p. 196～197) 地方中枢都市 広島 都市の再開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 平和記念都市や地方中枢都市としての広島市の特色と働きを捉える。 ● 過密問題に直面している都市における対策について関心を持つ。 	
77	4 都市と農村の変化と人々の暮らし② 高齢化が進む農村と町おこし (p. 198～199) 地域の高齢化 さまざまな町おこし	<ul style="list-style-type: none"> ● 過疎地域における高齢化を，人口ピラミッドから読み取り，さまざまな対策がとられていることを捉える。 ● 徳島県上勝町を例に，過疎対策としての町おこし・村おこしの様子や人々の努力を考察する。 	
78	5 都市と農村の変化と人々の暮らし③ 交通網の発展による地域の変化 (p. 200) 地方の中をつながり 地方をこえたつながり ■ 中国・四国地方の学習をふり返ろう (p. 201)	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通網の発展による地域の影響について，利点と問題点の両面があることに気づく。 ● 過密と過疎の問題など，地域内の差異を踏まえて，中国・四国地方の特色を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 201 の「中国・四国地方の学習をふり返ろう」に取り組み，2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し，適切に指導する。
-	[深めよう] 本州四国連絡橋と地域の結び付き (p. 202) 国家プロジェクト 四国から本州へ 本州から瀬戸内へ	<ul style="list-style-type: none"> ● 本州四国連絡橋などの国土開発が国家プロジェクトで進められてきたことを捉える。 ● 交通の整備による影響を多面的に考える。 	

3 節 近畿地方 -歴史の中で形作られてきた人々の暮らし- (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
79	1 近畿地方をながめて① 近畿地方の生活の舞台 (p. 203～205) 三つの地域で異なる自然 自然災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ● 近畿地方の自然環境の特色を、中国・四国地方と同様、三つの地域に分けて理解する。 ● 近畿地方における自然災害と、自然災害への備えについて関心を持つ。 	
80	2 近畿地方をながめて② 近畿地方の人々の営み (p. 206～207) 大都市圏の形成 大都市を中心とした産業 今に生きる伝統工芸	<ul style="list-style-type: none"> ● 近畿地方の大都市やそこでの産業について大まかに捉えるとともに、その歴史的背景を理解する。 ● これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。 	
81	3 歴史の中で形作られてきた人々の暮らし① 古都の成り立ちと現在 (p. 208～209) 貴族と寺社が造った都 世界の人々を呼び寄せる観光地	<ul style="list-style-type: none"> ● 京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な町並みが残り、世界から多くの観光客が来ていることを捉える。 ● 伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考える。 	
82	4 歴史の中で形作られてきた人々の暮らし② 都市と郊外の成り立ち (p. 210～211) 流通の拠点になった商業都市 私鉄に沿って広がった郊外	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪市の商業都市としての特色を、その地名に着目して、その歴史的背景を通して捉える。 ● 大阪市の発展に、私鉄が大きな役割を果たしてきたことを、地図を使って考察する。 	
83	5 歴史の中で形作られてきた人々の暮らし③ 現代に開発されたニュータウン (p. 212) 山を切り開き 海をうめ立てる 時代の要請と現代の課題 ■ 近畿地方の学習をふり返ろう (p. 213)	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸市などの都市の発展や、開発とその課題について、地図や写真などを使って捉える。 ● 近畿地方のさまざまな都市の特色を、その歴史的背景から比較し考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 213 の「近畿地方の学習をふり返ろう」に取り組み、2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し、適切に指導する。
-	[深めよう] 琵琶湖と環境保全の歩み (p. 214) 琵琶湖・淀川の水の流れ 環境保全の始まり 近年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図から琵琶湖の環境保全と近畿地方の人々の生活との関係を読み取る。 ● 琵琶湖の環境保全のための人々の取り組みについて関心を持つ。 	

4 節 中部地方－活発な産業を支える人々の暮らし－（配当 5 時間）

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
84	1 中部地方をながめて① 中部地方の生活の舞台 (p. 215～217) 「日本の屋根」 三つの気候	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図帳を使って、中部地方の地形の様子とその交通への影響を捉える。 ● 中部地方を三つの地域に分けて、その気候の特色の違いを雨温図から捉え、その理由を地形などと関連づけて捉える。 	
85	2 中部地方をながめて② 中部地方の人々の営み (p. 218～219) 平野，盆地に集中する人口 盛んな工業，農業，観光産業 今に残る歴史的な町並み	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境の違いや交通網などを示す資料から中部地方の人口や産業の地域的な違いを理解する。 ● これまでの学習を踏まえ，追究テーマに対する仮説を立てる。 	
86	3 活発な産業を支える人々の暮らし① 工業の発展と地域の変化 (p. 220～221) 東海の工業 変容する工業地域 雪国で育った伝統産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 東海で各種の近代工業が発展し，変容した理由を理解する。 ● 北陸の地場産業の変容と課題，その解決方法について考察する。 	
87	4 活発な産業を支える人々の暮らし② 自然環境を生かした各地の農業 (p. 222～223) 盆地と高原の農業－中央高地 人々が築いた産地－東海 日本の米所－北陸	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境のほか，社会条件やその変化を示す資料から，中央高地，東海，北陸の各地域の農業の特色を捉える。 ● 中部地方各地の農業の様子を示す写真やグラフなどから，各地の特色を生かした農業の姿を捉える。 	
88	5 活発な産業を支える人々の暮らし③ 世界と結び付く中部地方 (p. 224) 名古屋大都市圏と世界との結び付き 日本海を舞台に活性化する北陸 ■ 中部地方の学習をふり返ろう (p. 225)	<ul style="list-style-type: none"> ● 名古屋大都市圏および北陸と世界との結び付きについて，それぞれの特色を理解する。 ● 東海，北陸，中央高地の各地域の産業の地域的特色について，地図や図表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 225 の「中部地方の学習をふり返ろう」に取り組み，2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し，適切に指導する。
-	[深めよう] 北陸の食文化 (p. 226) 郷土料理 自然環境との関わり 行事との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の食文化について，自然環境や人々の生活と関わらせて考察する。 ● 自分の住む地域の郷土料理や人気のある料理について関心を持つ。 	

5 節 関東地方 -さまざまな地域と結び付く人々の暮らし- (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
89	1 関東地方をながめて① 関東地方の生活の舞台 (p. 227～229) 平野が広い面積をしめる地方 太平洋側の気候	<ul style="list-style-type: none"> ● 関東地方の地形や気候を表す資料を基に、地域的な特色を大まかに捉える。 ● 大都市特有の気候、環境の変化について捉える。 	
90	2 関東地方をながめて② 関東地方の人々の営み (p. 230～231) 高い人口密度と放射状の交通網 盛んな産業活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 関東地方は人口が多く、産業が盛んであることを、さまざまな資料から読み取り、理解する。 ● これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。 	
91	3 さまざまな地域と結び付く人々の暮らし① 首都・東京と各地との結び付き (p. 232～233) さまざまな機能が集まる東京 通勤・通学圏と都市機能の分散	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京にさまざまな機能が集中し、東京と日本や世界各地との結び付きが強いことを捉える。 ● 東京の都心部と郊外との結び付きについて、多面的・多角的に考察する。 	
92	4 さまざまな地域と結び付く人々の暮らし② 各地との結び付きで成り立つ産業と生活 (p. 234～235) 東京湾岸と北関東の工業地域 各地に広がる農業地域 充実した観光地	<ul style="list-style-type: none"> ● 関東地方の工業の特色を、臨海部と内陸部の結び付きに着目しながら捉える。 ● 関東地方の農業地域や観光地について、東京の市街地の拡大とその結び付きと関連づけて理解する。 	
93	5 さまざまな地域と結び付く人々の暮らし③ 世界への窓口・日本の中心 (p. 236) 世界への窓口としての関東地方 日本の中心としての関東地方 ■ 関東地方の学習をふり返ろう (p. 237)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種資料から、関東地方と日本各地や世界との結び付きを多面的・多角的に捉える。 ● 関東地方の特色を、日本各地や世界との結び付きに着目して捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 237 の「関東地方の学習をふり返ろう」に取り組み、2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し、適切に指導する。
-	[深めよう] 人口集中の課題と対策—横浜市を事例に考える (p. 238) ごみ削減の成功 近年の取り組み 暮らしやすさの追求	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料から、横浜市でごみの量を減らした理由を読み取る。 ● 身近な地域または近くの人口増加地域における問題点とその対策について関心をもつ。 	

6 節 東北地方－伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし－（配当 5 時間）

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
94	1 東北地方をながめて① 東北地方の生活の舞台 (p. 239～241) 三つの山地が造る地形 東と西で異なる気候	<ul style="list-style-type: none"> ● 三つの山地や海岸線に着目して東北地方の地形の特色を捉える。 ● 太平洋側と日本海側の違いを、資料を使って、東北地方の気候の特色を捉える。 	
95	2 東北地方をながめて② 東北地方の人々の営み (p. 242～243) 都市に集中する人口 さまざまな産業と地域の復興	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口分布図や地形図、交通網を示した資料などを通して、東北地方の地域的特色を捉える。 ● これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。 	
96	3 伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし① 祭りや芸能、年中行事の伝統とその始まり (p. 244～245) いましめと祝いの民俗行事 農家の生活と結び付いた夏祭り 気候に応じた食文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統的な民俗行事の資料を通して、東北地方の生活・文化に関心を持つ。 ● 東北地方の伝統行事や習慣を通して、自然環境や歴史的背景、産業などの地域的特色を捉える。 	
97	4 伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし② 伝統を生かし、生まれ変わる伝統産業 (p. 246～247) 地域の資源と結び付いた伝統工芸 社会の変化と結び付いたものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統産業や地場産業の特色と課題を通して、生活と結び付いた東北地方の産業の特色を捉える。 ● 伝統的な産業から新しい産業への変容を通して、現在の東北地方の地域的特色を多面的・多角的に捉える。 	
98	5 伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし③ 過去からの継承と未来に向けた社会づくり (p. 248) 教訓を伝える 教訓を継承する ■ 東北地方の学習をふり返ろう (p. 249)	<ul style="list-style-type: none"> ● 東北地方の生活・文化と不可分な災害の歴史と教訓を通して、先人の思いや今後の社会の在り方について考察する。 ● 東北地方の地域的特色を生活・文化に着目してまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 249 の「東北地方の学習をふり返ろう」に取り組み、2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し、適切に指導する。
-	[深めよう] 産業を活性化させる人の流れ—仙台市を事例に考える (p. 250) スポーツと人々の流れ 会議やイベントと人々の流れ 人の流れと産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きなイベントや会議などの集客力を捉える。 ● 都市の魅力や集客力について関心を持つ。 	

7 節 北海道地方 -雄大な自然とともに生きる人々の暮らし- (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
99	1 北海道地方をながめて① 北海道地方の生活の舞台 (p. 251～253) 南北に走る山と平野 冷涼・寒冷な気候	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図帳の資料などを通して、北海道の位置や面積，地形の特色を理解する。 ● 雨温図などの資料を通して、北海道地方が，他地域と比べて冷涼な気候であることを理解する。 	
100	2 北海道地方をながめて② 北海道地方の人々の営み (p. 254～255) 札幌市に集中する人口 地域の資源を生かした産業 先住民族と開拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道地方の人口と産業・都市を関連づけることで，北海道地方の地域的特色を捉える。 ● これまでの学習を踏まえて，追究テーマに対する仮説を立てる。 	
101	3 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし① 自然の制約に適応する人々の工夫 (p. 256～257) 寒さに対応した生活 自然災害に備える 海のめぐみに支えられる	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道の厳しい自然災害について，景観写真などを通して読み取る。 ● 北海道の自然の恵みをどのように利用しているのかを資料を基にして考察し，理解する。 	
102	4 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし② 自然の制約や社会の変化を乗り越える (p. 258～259) 拡大する稲作 大規模化する畑作と酪農 製品の価格と品質競争	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道地方の厳しい自然環境に対して，人々がどのような工夫や努力を行って農業を営んできたのかを捉え，理解する。 ● これまでの学習を通して，今後の北海道地方の農業の在り方について考察する。 	
103	5 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし③ 自然の特色を生かした観光産業 (p. 260) 世界と結び付いた観光産業 自然と共存する観光産業 ■ 北海道地方の学習をふり返ろう (p. 261)	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客数のグラフなどを通して，北海道地方の気候は各地から観光客をひきつけていることを理解する。 ● これまでの学習を踏まえて，北海道地方の特色を，自然環境をテーマに地図や図表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 261 の「北海道地方の学習をふり返ろう」に取り組み，2 時間目で設定した追究テーマの問いを解決する。 【0.5 時間】 ● ※生徒自身の追究テーマに沿ったまとめを確認し，適切に指導する。
-	[深めよう] アイヌの人たちと多文化共生 (p. 262) 自然と結び付いたアイヌの文化 アイヌの文化の衰退と振興 多様性を追求する社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図などから北海道にはアイヌ語が由来となった地名が多いことを読み取る。 ● アイヌの人たちの文化を尊重しようとする態度を持つ。 	

第4章 身近な地域の調査

(配当7時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動6時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
104	<p>1 身近な地域を見直そう (p. 266～267)</p> <p>身近な地域の情報を集めよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高い場所から地域をながめたり、通学路周辺を歩いたりして、身近な地域で見られるさまざまな地理的事象に関心を持つ。 ● 縮尺の大きな地図や景観写真・空中写真から、身近な地域の特色や変化の様子に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登下校時などに、地域の情報収集を行う。 【1時間】 <p>※安全に配慮しながら適切に情報収集するよう指導する。</p>
105	<p>[地理スキル・アップ] 地形図の読み取り方② (p. 268～269)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地形図の情報を基に、その地域の地形や起伏、土地利用の読み取り、新旧地形図を比較して変化の様子に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2章1節の [地理スキル・アップ] 地形図の読み取り方① (p. 148～149) (57時間目) とまとめて学習することも考えられる。 【1時間】
106	<p>2 テーマを決めて調査計画を立てよう (p. 270～271)</p> <p>調査するテーマを話し合おう 仮説を立ててみよう 調査計画を立てよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達と話し合っ、て、身近な地域の特色や課題を見いだすために適切な調査テーマを設定する。 ● 友達の意見を出し合いながら、調査結果の見通しや適切な調査計画を立てる。 	
107	<p>3 さまざまな調査方法① 野外観察や聞き取り調査をしよう (p. 272～273)</p> <p>野外観察をしよう 聞き取り調査をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 野外観察や聞き取り調査を通して、地域調査の基礎を身につけるとともに、地域の特色や課題を見いだす。 ● 事前準備をしっかりと行っ、たうえで、マナーを守って野外調査に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査テーマの設定と調査計画の立案を受けて、野外観察や資料収集・読み取り、考察、まとめの作業を行う。 【4時間】 <p>※調べ学習の流れや手法は、歴史的分野の第1章の「4 歴史の調べ学習をするには…?」(p. 12～18) と共通で指導しておく。</p>
108	<p>4 さまざまな調査方法② 資料を調べて調査を深めよう (p. 274～277)</p> <p>資料を調べて深めよう 地域の変化や課題をとらえよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 文献、統計、地図、写真などの資料を調べて、調査テーマを深く追究し、地域の変化の様子や課題を捉える。 	<p>※生徒からの相談や進捗状況を把握する機会を設けるなど、生徒の学習状況を適宜・把握し、適切に指導する。</p>
109	<p>5 調査結果をまとめ、地域を見直そう (p. 278～279)</p> <p>分かったことをまとめてみよう 地域を見直そう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果を仮説と照らし合わせて、仮説が正しかったかどうか検証する。 ● 調査結果を整理・考察して、調査テーマに対する結論を地図や図表などにまとめる。 	<p>※「6 発表会をして地域の将来像を考えよう」については、各自でまとめた内容をプリント等で配布し、それぞれに対する意見を記述させるなど、共有と意見交換の方法を工夫する。</p>
110	<p>6 発表会をして地域の将来像を考えよう (p. 280～281)</p> <p>分かりやすい発表をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査の動機と目的、調査方法と経過、調査結果と分析などを分かりやすくまとめ、発表する。 	

地理－15

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
	発表会で学び合おう	<ul style="list-style-type: none"> ● ほかのグループの発表も参考にして，身近な地域の特色や課題を捉え，より良い地域の将来像を考える。 	